Luz del alma

大金杏菜

揺らめく雲に　描く雨は
アメノホシが　揺らいでる
欠けた水面(みなも)に陽(ひ)を隠し
鳥(ちょう)と共に　空を喰む

白い夜に身を包み
夕暮れと聴く　古竜の囁き
悠久の石に隠れた痕では
モノクロームは　檻の外

願いを込めて吹きましょう、
最果てに行き着く前に。

水銀燈が　乱反射する
誰も居ない　迷路の中で
崩れた魔法は　永遠に
詩人の唄では　戻らない

揺蕩(たゆた)う光を　謳ってる
澄んだ花びらの　冒険で
独りぼっちで咲いた時
アメノホシが　晴れ渡る

煌夜はもう終わらないから。

夜の帳が降りる前、貴方だけに伝えます。

傅(かしず)く　野薔薇は　架け橋に
幻想演奏家が躊躇って
胸元で　蝶番を　抱きしめる
漂う香りの　理(ことわり)の中

時の愁いを　蒔いている
水鳥が辿る　白昼霧の間(まにま)
住処に帰る　宴の音色は
アメノホシのまなざしに

涙のペンダントを王冠に変えて、
そう願っているから。

蝙蝠傘で　アメノホシ
光になって　消えてゆく
風見鶏たちは眩しくて
ゆらゆらモビール　揺らしてる

アメノホシが奏でるは
幾千光年の　グロッケンシュピール
翠の妖精　空高く
夢見の蜥蜴は　彗星へ

ふたつめの月は見えていますか？
取り残されないで。